

当行（単体ベース）の営業の概況

2019年9月中間期の営業の概況（2019年4月1日～2019年9月30日）

当中間期のわが国経済は、輸出や生産に弱さが見られましたが、雇用・所得環境の着実な改善を背景として、個人消費の持ち直しが続くなど景気は緩やかな回復が続きました。

地元香川県におきましても、設備投資は高水準で推移し、企業の生産動向は緩やかな持ち直しが続くとともに、個人消費も着実に持ち直すなど景気は回復基調が続きました。

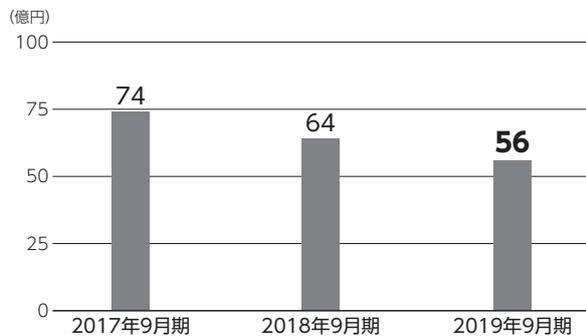
このような経済環境のなか、当中間期の業績は次のとおりとなりました。

コア業務純益の推移

コア業務純益は、経費は減少しましたが、資金利益の減少により、前年同期比7億74百万円減少して56億36百万円となりました。

*コア業務純益とは

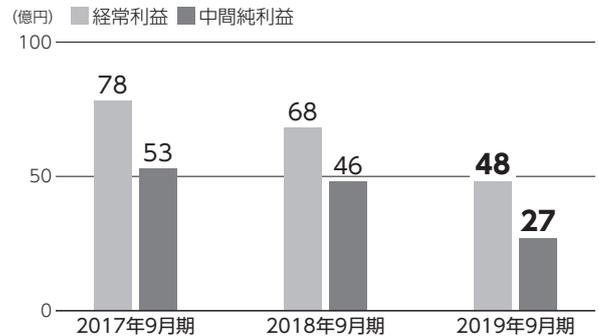
コア業務純益 = コア業務粗利益（資金利益 + 受取手数料など） - 経費
銀行の本来業務からの利益を表す指標。



経常利益・中間純利益の推移

経常利益は、コア業務純益の減少や与信関係費用の増加などにより、前年同期比20億3百万円減少して48億40百万円となりました。

また、中間純利益は、前年同期比18億47百万円減少して27億62百万円となりました。



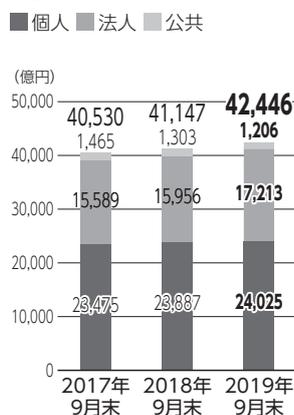
総預金・貸出金等の残高推移

●総預金等

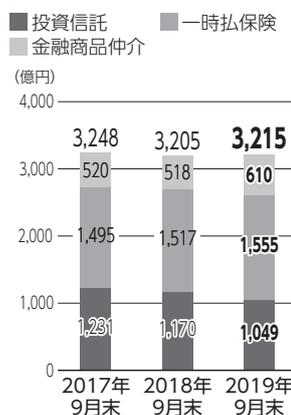
当中間期末の総預金残高は、公共預金は減少しましたが、法人及び個人預金が増加したことにより、前年同期末比1,298億円増加して4兆2,446億円となりました。

また、預り資産残高は、投資信託の残高は減少しましたが、金融商品仲介及び一時払保険の残高が増加したことにより、前年同期末比9億円増加して3,215億円となりました。

総預金（預金 + 譲渡性預金）



預り資産

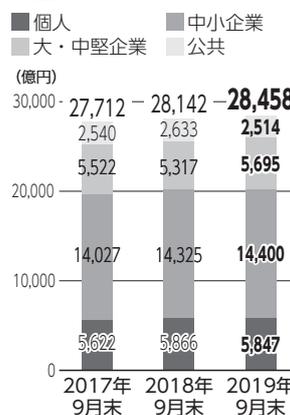


●貸出金

当中間期末の貸出金残高は、公共及び個人向け貸出金が減少しましたが、大・中堅企業及び中小企業向けともに増加したことにより、前年同期末比316億円増加して2兆8,458億円となりました。

また、住宅ローンの残高は、前年同期末比5億円減少して5,491億円となりました。

貸出金



住宅ローン

